様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	中川　顕志
（和訳）	Significance of the inflammation-based prognostic score in recurrent pancreatic cancer 再発膵癌における炎症性予後スコアの意義		

論文内容の要旨

集学的治療の進歩に伴い，膵癌の生存期間延長は認めているが，依然として大多数の症例で治癒切除後の再発を認める．再発時に予後を予測し至適治療戦略を計画することが患者の予後向上につながると考えられる．本研究の目的は，再発膵癌における炎症及び栄養学的指標（inflammation-based prognostic score）を含めた予後予測因子を明らかとすることである．

2006年1月から2015年12月に切除を行った浸潤性膵管癌263例のうち，観察期間内に再発を認めた172例を対象として，再発膵癌におけるinflammation-based prognostic scoreの，生存期間や治療に与える影響を予測するうえでの有用性を検証した．

各種inflammation-based prognostic score（mGPS, NLR, PLR, LMR, PNI）の有用性を検討したところ，ROC曲線による解析では，PNIが再発後12ヶ月後の生存においてAUC値が0.704と他の予後予測因子と比較して優れていた．予後因子解析を行ったところ，多変量解析において，肝転移（P<0.001），PNI＜40（P<0.001）が独立した再発後予後不良因子であった．予後不良因子数別に生存時間分析を行うと，0因子陽性患者の生存期間中央値21.2ヶ月，1因子陽性患者11.1ヶ月に対し，2因子陽性患者は4.3ヶ月と著しく予後不良であった．

PNIは再発膵癌の予後予測を行う上で有用な指標になり得ること考えられる．予後不良因子該当患者においては化学療法による生存期間延長効果が乏しく，栄養状態改善への介入や予後を考慮した慎重な治療計画が必要であることが示唆された．